2015年度若手研究者国際会議派遣事業 発表報告書

Transformation of Urban Ethnic Business: Korean Business Development in Okubo Koreatown, Tokyo

金 延景 KIM Yeonkyung

IGU Urban Commission annual meeting in Dublin, Ireland

(1) 研究発表の概要

本発表では、東京・大久保コリアタウンの観光地化における韓国系起業家の役割について検討した。Rath (2007)によれば、近年北米やヨーロッパ諸都市においてエスニック空間の観光地化が顕著であり、その過程において i) city authorities, ii) critical infrastructure, iii) immigrant entrepreneur の3つのアクターが重要な役割を果たす。特に、immigrant entrepreneur は、エスニック文化に対するホスト社会の需要と供給に影響を与える媒介者としての役割を担うとされる。しかしながら、エスニック空間の観光地化過程において immigrant entrepreneur がどのような取り組みを行うのかについては十分に検証されていない。

本発表では、まず新宿区大久保地区におけるエスニック集団の居住パターンとエスニックビジネス施設の分布パターンの変遷から大久保コリアタウンの形成・発展過程を整理し、その後、大久保コリアタウンの観光地化に伴う韓国系起業家のビジネス展開を検討した。大久保コリアタウンは、1980年代以降、アジア系外国人ニューカマーからなるマルチエスニックタウンの一部として形成され、1990年代に入り、韓国人人口の増加とそれに伴う韓国系ビジネスの集積により発展した。

日本では、2002年の日韓FIFAWC共催を契機に韓国と友好な関係が構築され、両国間および民間において文化交流が活発化した。その中、2004年に日本で全国放送された韓国ドラマ『冬のソナタ』の反響は「韓流ブーム」という社会現象として捉えられるほど大きく、そのファンである日本人中高年女性を中心に韓国文化に対するホスト社会の需要が高まった。かつて韓国人の生活拠点であった大久保コリアタウンは、韓国ドラマ・映画や韓流スター関連のグッズやイベント、

ファン同士の親睦や情報交換の場を求めてやってくるホスト社会の構成員に向けた観光地へと化した。これを受け、2000年代半ば以降、韓国系起業家はホスト社会の顧客需要を見込み、韓流グッズ店など新業種の導入と多店舗展開を行った。さらに2010年に起きたK-POPを中心とする「第二次韓流ブーム」により日本人若年女性へと顧客層が拡大し、大久保コリアタウンでは既存の起業家に加え、韓国の美容やファッション関連の財やサービスを扱う業種を中心に多くの新規参加がみられた。

このように、大久保コリアタウンの観光地化は、メディアを媒体としてホスト社会内に生じた韓国大衆文化への需要と、特定層の需要に合わせて多角的にビジネスを展開した韓国系起業家によるBottom-upプロセスであるといえる。そこには、特定の韓国大衆文化を観光資源化し、財やサービスとして提供する取り組みと、店舗の看板や装飾などを通じたエスニック景観の造成といった韓国系起業家の役割があった。一方、このようなbottom-upプロセスによるurban ethnic tourismの進展においては、両国間の経済・政治関係に強く影響される不安定なホスト社会の需要と、居住空間の商業利用や観光客の増加による騒音やfoot trafficなど土地利用をめぐる地域住民とのトラブルが課題として確認できた。

(2) 研究発表の成果

本発表は、8月13日（木）IGU Urban Commissionにおいて行われた。発表内容に関連して、都市地理学者の中から大久保コリアタウンの観光地化におけるホスト社会側の取り組みと、観光地化が当該地域にもたらした地域的変容の諸相に関する質疑が得られた。本発表は、エスニックタウンの観光地化をめぐるエスニック

ク集団側の取り組みとその役割を中心に紹介しており、ホスト社会側の取り組みに関する研究視点が不足していた。欧米諸国にみられるエスニックタウンの観光地化の動きは、都市の経済再生や文化振興策などホスト社会の取り組みの中で展開される傾向がある。今後、東京のコリアタウンの観光地化を世界のエスニックタウンと比較し位置付けるためにも、本発表を通して導き出された諸課題を今後の研究に活かしたい。

(3) その他

本発表を通じ、欧米諸国と比較して移民比率が低

く、国家の移民政策や住民の外国人受入意識などホスト社会としての諸状況が異なるなか、参加者へエスニックタウンの観光地化に関する日本・東京の一事例が紹介できた。IGU Urban Commissionへの参加を通じて、各国の若手研究者たちと知り合い親睦を深めることができ、今後もそのネットワークを活用し、北米やヨーロッパ都市における移民やエスニックタウンに関する研究に取り組んでいきたい。

(筑波大学大学院博士課程生命環境科学研究科)